

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

大阪狭山市教育委員会



1.調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況の把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2.対象学年

小学校第6学年 実施校数－児童数 7校 500人
中学校第3学年 実施校数－生徒数 3校 446人

3.調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・小学校【国語、算数、理科】
- ・中学校【国語、数学、理科（CBT）】

※英語（中学校）は3年に一度程度の実施のため実施せず

(2) 質問調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

原則全ての児童生徒を対象にオンライン方式により実施

4.実施日 令和7年4月17日（木）

5.調査結果の取扱いについて

本調査は、競争を目的とするのではなく、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することを通して、これまでの教育活動の結果と課題を検証し、その改善を図ることをめざします。本調査により測定できるのは、学力の一部であり、教育活動の一側面を示すものです。また、生活習慣や学校環境についての調査も含まれており、地域・家庭との一層の連携を深めることをめざします。

教科に関する調査結果

【小学校】

○国語

学習指導要領の内容		正答率（％）		
		大阪狭山市	大阪府	全国
全体		67	65	66.8
知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	81.5	77.0	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	63.3	61.5	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	82.9	80.3	81.2
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	67.6	65.0	66.3
	B 書くこと	68.6	67.1	69.5
	C 読むこと	56.6	56.1	57.5

昨年度の課題であった「話すこと・聞くこと」の領域では、正答率が昨年度より上回る結果となっている。一方、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかをみる」ことについて、課題が見られた。図や表から得られた情報をつなげて理解する取組みが必要である。

【中学校】

○国語

学習指導要領の内容		正答率（％）		
		大阪狭山市	大阪府	全国
全体		54	52	54.3
知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	47.8	47.8	48.1
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	51.0	50.7	53.2
	B 書くこと	54.7	50.5	52.8
	C 読むこと	63.0	61.2	62.3

昨年度の課題であった「根拠を明確にして書く問題」について、全国平均を上回る結果となっている。一方、「論理の展開に注意して話の構成を工夫することができるかどうかをみる」ことについて、課題が見られた。文脈や論理の展開を意識した文章作り等の取組みをとおしてこれらの力を定着させることが必要である。

○算数

学習指導要領の領域及び評価の観点		正答率（％）		
		大阪狭山市	大阪府	全国
全体		56	58	58.0
学習指導要領の領域	A 数と計算	61.7	62.4	62.3
	B 図形	53.3	55.7	56.2
	C 測定	52.1	53.8	54.8
	C 変化と関係	55.2	57.3	57.5
	D データの活用	60.8	61.5	62.6
評価の観点	知識・技能	64.4	65.1	65.5
	思考・判断・表現	45.4	47.9	48.3

昨年度の課題であった「変化と関係」の領域では3.8p上回る結果が見られた。また、「理由や求め方」などを記述する問題では多くの児童が回答することができた一方で、一部の数値の誤りや語句の不足により誤答となっている。基礎的な算数用語や定義についての知識を定着させるとともに、記述式の回答について、必要な要素が全てそろっているか確認できる力を育む取組みを進める必要がある。

○数学

学習指導要領の領域及び評価の観点		正答率（％）		
		大阪狭山市	大阪府	全国
全体		50	47	48.3
学習指導要領の領域	A 数と式	47.4	42.4	43.5
	B 図形	49.1	46.2	46.5
	C 関数	47.2	46.3	48.2
	D データの活用	58.7	54.9	58.6
評価の観点	知識・技能	57.1	52.9	54.4
	思考・判断・表現	39.4	37.4	39.1

昨年度の課題であった「説明する問題」について、特に「式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する」問題には、引き続き課題が見られる。一方、語句や図形の意味を理解しているかどうかをみる問題については、いずれも全国平均を上回っており、知識・技能の定着について成果が出ている。

○理科

学習指導要領の領域及び評価の観点			正 答 率（％）		
			大阪狭山市	大阪府	全国
全体			56	55	57.1
学習指導要領の 区分・領域	A 区分	「エネルギー」を柱とする領域	45.9	43.9	46.7
		「粒子」を柱とする領域	49.7	49.4	51.4
	B 区分	「生命」を柱とする領域	49.5	49.0	52.0
		「地球」を柱とする領域	65.6	63.9	66.7
評価の観点		知識・技能	54.4	52.7	55.3
		思考・判断・表現	57.5	56.2	58.7

前回（令和4年度）の課題であった様々な情報を基に自分の考えをもつことについて、改善が見られた、一方で、学習で得た知識を身の回りの自然現象につなげることに課題が見られた。また、「結露」について基本的な知識の定着にも課題が見られ、身の回りの生活に起きる現象と科学的知識とを結びつける取組みが必要である。

○理科（CBT）

全日程共通の公開問題における		IRTスコア	
	平均正答数		
大阪狭山市	2.8問/6問	市	504
大阪府	2.7問/6問	府	487
全国	2.9問/6問	全国	503

IRTとは、テストの結果を「受験者」と「問題の難しさ」に分けて分析する方法です。これによって、違う問題を使ったテストでも、また違う集団の結果でも、できるだけ公平に学力を比べられるようになります。

IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、全国平均を基準とした得点で表したものです。

IRTスコアでは、全国平均に対して標準的な学力がついていることがわかる。一方で、問題別の正答率をみると「地層」に関する知識をもとに分析的に考えることや、「生物」の生命を維持する働きに関する基本的な知識について課題が見られた。日常的に見えにくい事柄について、より身近な事象としてとらえるために実験・観察が重要である。

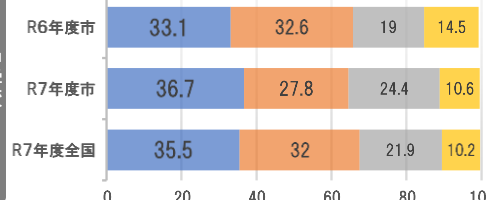
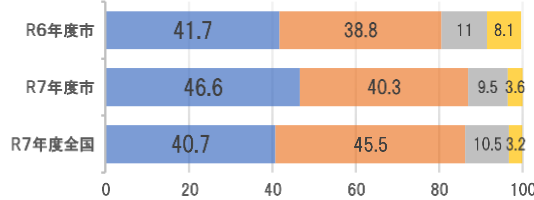
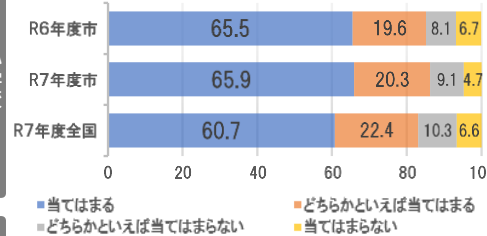
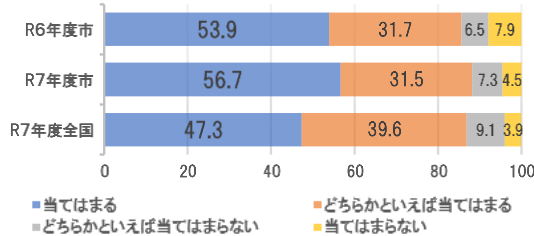


質問調査結果

学びに向かう子どもの自己肯定感

自分には、よいところがあると思いますか

将来の夢や目標を持っていますか

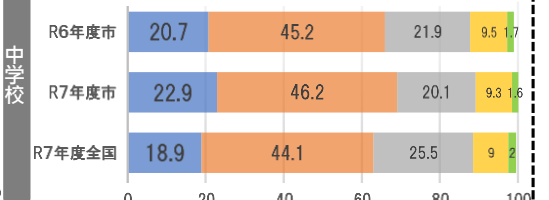
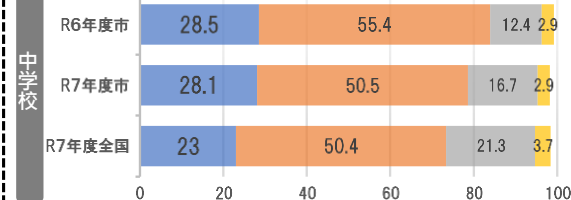
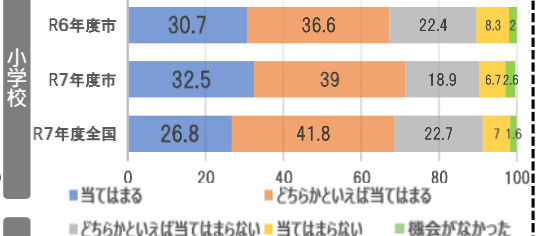
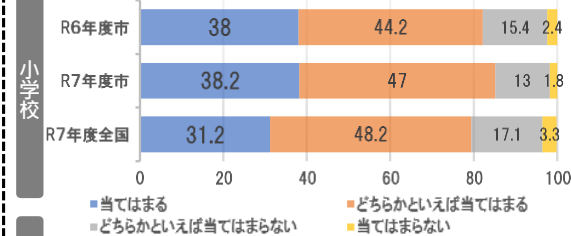


自分には、よいところがあると肯定的に回答した子どもの割合は小中学校ともに増加している。一方で、将来の夢や目標については肯定的評価の割合が減少している。高まった自己肯定感を将来の夢や目標設定に結びつけられるよう、将来の目標設定を支援していきたい。

学びに向かう力（知識・技能、思考力・判断力・表現力とともに子どもたちに育むべき力）

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

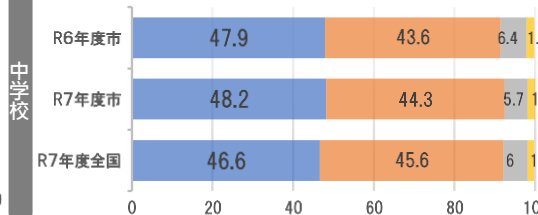
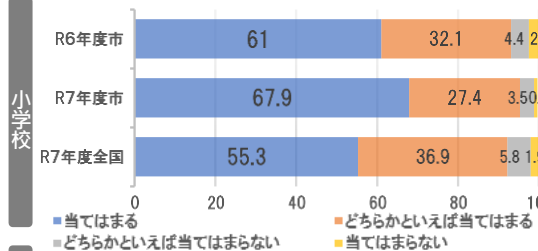
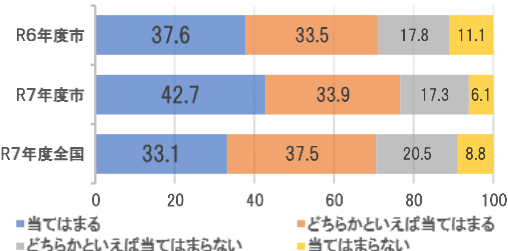


小中学校ともに学びに向かう力として学習の振り返りや表現の工夫において肯定的回答が増加している。一方で、中学校では学習した内容を次の学習につなげることについて課題が見られた。主体的な学びを支援し、協働的な学びを充実させることで、自ら学ぶ姿勢を育んでいきたい。

子どもと教職員との関わり

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

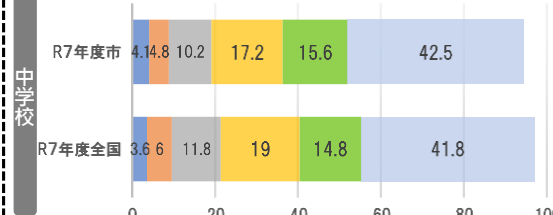
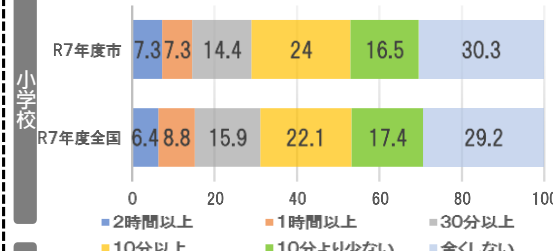
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



小中学校ともに先生や学校にいる大人に相談できたり、先生がよいところを認めてくれたりしていると肯定的回答が増加している。一方で、20%以上の児童生徒が相談しにくいと感じている。カウンセリング週間の取組みや日々の教員との関わりを通じて、安心して相談できる環境づくりを引き続き進めていきたい。

読書活動の充実

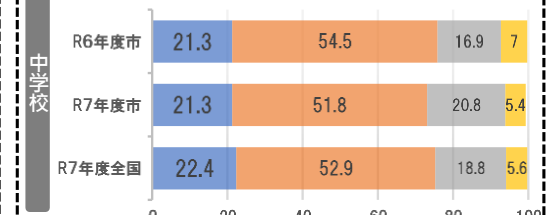
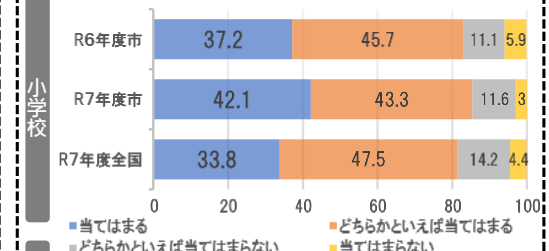
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）
※R7年度新規質問項目



読書する機会が全国平均に対して下回っている。学校図書館を活用し、子どもが多くの本にふれ、自分の好きな本に出会えるようにしたい。また、家庭にある本の数も減少しており、家庭の協力が必要であると考えている。

グローバル人材育成に向けての一層の充実

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



小学校では肯定的回答が全国を大きく上回っている一方で、中学校では課題がみられた。学習活動の中で地域や地域の人のつながりをもつことで、中学生の地域への関心をより高めたい。